



歌と舞のあたらしいページ

吉増剛造 × 笠井叡

日本現代詩歌文学館 2012年度 常設展「未来からの声が聴こえる—2011.3.11と詩歌」関連イベント / 入場無料・申込不要

煙と雫のあたらしいページ

1、あしうら ^{リズム} 足裏の律動

2013年2月16日(土) 13:30~ 舞踏/笠井叡 対談/笠井叡・吉増剛造 司会 林浩平

2、北上川の聲が聞こえて来ていた、……

2013年2月17日(日) ①10:30~ ②13:00~ ③15:00~ 上映と対談/吉増剛造・林浩平

在るとは あらわすとは ことばとは

その問いを越え続ける身体から、〈ことば〉の真新しいページの開く音が聞こえる

笠井叡 かさいあきら 舞踏家、振付家。1943年生まれ。60年代に大野一雄に入門、前衛的な舞台活動を展開し、土方巽らと舞踏の創成期を築く。71年に稽古場「天使館」を開き、多くの舞踏家を育成、79年にはドイツに留学してオイリュトミー（運動を主体とする芸術）を研鑽。帰国後、15年の沈黙を経て舞台公演を再開し、舞踏の第一人者として国内外で活躍している。

吉増剛造 よし増 剛造 詩人。1939年生まれ。60年代から朗読パフォーマンスをはじめとする実験的表現を発表し、国内外を舞台に旺盛に活動する。近年は、多重露光撮影による写真、銅板に詩を刻んだ作品、映像作品 gozoCiné など、より多様な表現を展開。北海道・東北は長年の重要な作品モチーフのひとつであり、2011年5月には岩手を再訪、度々東北を歩いては膨大な作品を生み続けている。

2012年度常設展 未来からの声が聴こえる—2011.3.11と詩歌 2012.3.15~2013.3.10 入場無料

日本現代詩歌文学館 岩手県北上市本石町2-5-60 TEL0197-65-1728 休館 12月~3月の月曜日,12/28~1/4